

パピも、よく頑張った

我が家の愛犬も、ともに被災しました。大きな艱難を一緒に潜り抜けた、立派な被災犬と表しましょう。「よく頑張ったね」と、声をかけてやりたい心境です。（その割には、大事にしてなくて、ごめん。）14歳になる、白内障気味の老犬で、2.7キロの、小型犬（パピヨン）です。

思えば彼も、いろんなところを通りました。我が家の子供たちの成長から進学まで、結婚、そして恐るべき孫の襲来まで見届けました。やっとこれからは、室内犬のごほうびとして、他の多くの犬たちが迎える、飼い主との静かなる余生が保障されているのだと思っていたに違いありません。その矢先の、心の震災です。おそらく、訳がわからなかったでしょう。出先での被災した彼は、それに続く飼い主とのいきなりの逃避行。この2カ月間の走行距離は、半端ではありません。一体彼は、この一連の出来事をどのように打受け止めているのでしょうか。

彼も、静岡から東北にもらわれてきたので、さすがに忍耐深く、何度聞いても、決まって「ワン」としか答えません。多くのことを呑み込んだうえでの「ワン」とすれば、よほど私よりできていますが、もしかして何も考えていないのではないかと、少々の疑念も抱いています。

とはいえ、「よく旅が続くなあ」とか、「どうしていつまでもボクの家に戻らないんだろう」とか、考えているかもしれないとは、思っています。

おそらく、何が起こったのかも分からないまま、その日、その時を精いっぱい生きたことは確かです。それでいい。そんなパピ（犬の名前）を、「よくがんばったね」と、ほめてあげることにはしましょう。きっと、彼は彼なりの、相当のストレスを抱えながら、生きてきたはずです。よく耐え、何がどうしてこうなったかわからない行程を、わかってもらわなくても、生きてきたという点では、私たちと同じです。

果たして父なる神も、私たちの旅路を振り返って「艱難の中、よくがんばったじゃない」と、ほめくださるでしょうか。

5月16日（月）東北新幹線内にて